

ぺた語義：国立大学入学者選抜制度への「情報」の追加について

著者	中山 泰一
雑誌名	情報処理
巻	63
号	2
ページ	79-80
発行年	2022-01-15
URL	http://id.nii.ac.jp/1438/00010003/

国立大学入学者選抜制度への 「情報」の追加について

中山泰一

電気通信大学

高等学校情報科と情報入試のながれ

2018年3月30日、2022年度から高等学校で実施される新学習指導要領が告示された。情報科は、情報の科学的な理解に重点を置き、「情報Ⅰ」を必修科目とした上で、その発展的内容を扱う「情報Ⅱ」を選択科目として設置することになった。内容は、次のとおりである。

●情報Ⅰ（必修科目、2単位）

- (1) 情報社会の問題解決
- (2) コミュニケーションと情報デザイン
- (3) コンピュータとプログラミング
- (4) 情報通信ネットワークとデータの活用

●情報Ⅱ（選択科目、2単位）

- (1) 情報社会の進展と情報技術
- (2) コミュニケーションとコンテンツ
- (3) 情報とデータサイエンス
- (4) 情報システムとプログラミング
- (5) 情報と情報技術を活用した問題発見・解決の探究

そして、2021年7月30日に文部科学省は、2025年の大学入学共通テストから「情報」を出題教科として、「情報Ⅰ」をその科目とすることを決定した（表-1）。それまでの経緯は文献1）、2）、3）を、また、大学入試センターが同年3月24日に公表した「情報」のサンプル問題は文献4）を参照されたい。

さらに、文部科学省は同年9月29日に、「情報Ⅰ」を独立した時間帯に60分で行うことと、2025年の大学入学共通テストでは既卒者のために旧学習指導要領（2009年3月告示、情報科は「情報の科学」と「社会と情報」の選択必修）に対応した経過措置問題を出題することを決定している⁴⁾。

国大協による「6教科8科目」の原則の検討

現在、国立大学協会（国大協）で、2025年に実施する入学者選抜制度が議論されている。これまで、国立大学は一般選抜においては、第一次試験として大学入学共通テスト（原則5教科7科目）を課して

表-1 令和7年度大学入学者選抜に係る大学入学共通テスト実施大綱において定める出題教科・科目

教科	グループ	出題科目
国語		『国語』
地理歴史		『地理総合、地理探究』、『歴史総合、日本史探究』、『歴史総合、世界史探究』、『地理総合、歴史総合、公共』
公民		『公共、倫理』、『公共、政治・経済』、『地理総合、歴史総合、公共』（再掲）
数学	①	『数学Ⅰ、数学A』、『数学Ⅰ』
	②	『数学Ⅱ、数学B、数学C』
理科		『物理基礎、化学基礎、生物基礎、地学基礎』
		『物理』、『化学』、『生物』、『地学』
外国語		『英語』、『ドイツ語』、『フランス語』、『中国語』、『韓国語』
情報		『情報Ⅰ』



きた。これに「情報」を加えた「6教科8科目」を原則とすることが検討されている。高等学校新学習指導要領で2022年度から「情報Ⅰ」が必修科目となること、2018年5月17日に開催された第16回未来投資会議で「大学入試においても、国語、数学、英語のような基礎的な科目として、情報科目を追加、文系、理系を問わず理数の学習を促していく」とされたことが背景にあると考えられる。

「情報」を加えた「6教科8科目」の原則が検討されていることは、2021年11月12日開催の国大協総会後の記者会見で示されており、2022年1月28日開催予定の国大協総会で審議される予定とのことである。本稿の掲載は、その審議の前であり、予断を許さない状況ではあるが、筆者は「情報」を加えた「6教科8科目」の原則が決定されることを強く願うとともに、その願いが叶うと信じている。

国大協入試委員会が大学入試センターに宛てた経

以下の条件を満たした上で実施される場合には、「適当である」と考えられる。

1. 旧教育課程「情報」に対応した経過措置問題(以下、『旧情報』)については、旧教育課程における教科「情報」の選択科目である、「社会と情報」「情報の科学」いずれの履修者も回答できるような問題内容、あるいは選択問題の設定が行われること。
2. 『旧情報』と『情報Ⅰ』との間で難易度に差が出ないような作問がなされること。なお、『旧情報』と『情報Ⅰ』で一定の平均点差が生じた場合には、得点調整が実施されること。
3. 現在旧教育課程を履修している高校生に対して、令和7年度入試においては、現在大学共通テストで出題されていない『旧情報』および『情報Ⅰ』が出題されることについて、十分な説明がなされること。

図-1 国大協入試委員会が大学入試センターに宛てた経過措置についての意見(第7回大学入学者選抜協議会(2021年9月13日開催)の配布資料(参考資料4『「情報Ⅰ」の経過措置についての関係団体からの意見』)からの抜粋)⁵⁾

過措置についての意見では、(1)経過措置問題の出題、(2)得点調整の実施、(3)現在の高校生への周知を求めている(図-1)。これに対し、大学入試センターは2021年12月17日に「情報」の出題方法の詳細(図-2)を公表するとともに、「情報Ⅰ」と「旧情報(仮)」の間で得点調整を行うと公表している⁴⁾。

デジタル社会を生きる生徒には、文系、理系を問わず、大学入学時点で情報活用能力を身に付けていることが求められる。国立大学の入試科目に「情報」が加わることの意義は大きいと筆者は考えている。

参考文献

- 1) 中山泰一：大学入学共通テストへの「情報」の出題について、ニューサポート高校「情報」、Vol.18, pp.6-7 (2021)。
- 2) 萩谷昌己：大学入学共通テスト実施大綱の予告に関する本会の意見について、情報処理、Vol.62, No.11, pp.e62-e66 (2021)。
- 3) 河原達也：大学入学共通テストにおける教科「情報」の導入を受けて、情報処理、Vol.63, No.2, pp.77-78 (Feb. 2022)。
- 4) 大学入試センター：令和7年度以降の試験に向けた検討について、https://www.dnc.ac.jp/kyotsu/shiken_jouhou/r7ikou.html
- 5) 大学入学者選抜協議会：議事録・配付資料、https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/koutou/112/giji_list/ (2021年12月1日受付)



中山泰一 (正会員) nakayama@uec.ac.jp

1993年東京大学大学院工学系研究科情報工学専攻博士課程修了。同年より電気通信大学において、計算機システム、並列分散処理、情報教育の研究に従事。現在、同大学院情報理工学研究所教授。2017年度科学技術分野の文部科学大臣表彰科学技術賞受賞。2020年より本会教育担当理事、日本学術会議特任連携会員。

新教育課程(平成30年3月告示の高等学校学習指導要領に基づく教育課程)に対応した『情報Ⅰ』とは別に、現行の教育課程(平成21年3月告示の高等学校学習指導要領に基づく教育課程)の「社会と情報」及び「情報の科学」の内容を出題範囲とする経過措置科目『旧情報(仮)』を出題する。なお、『旧情報(仮)』では、高等学校等において「社会と情報」、「情報の科学」のいずれの科目を履修していても不利益が生じないように、両科目の共通部分に対応した必答問題に加え、「社会と情報」に対応した問題及び「情報の科学」に対応した問題を出題し、選択解答させる。

図-2 令和7年度大学入学者選抜に係る大学入学共通テスト「情報」の出題方法について⁴⁾